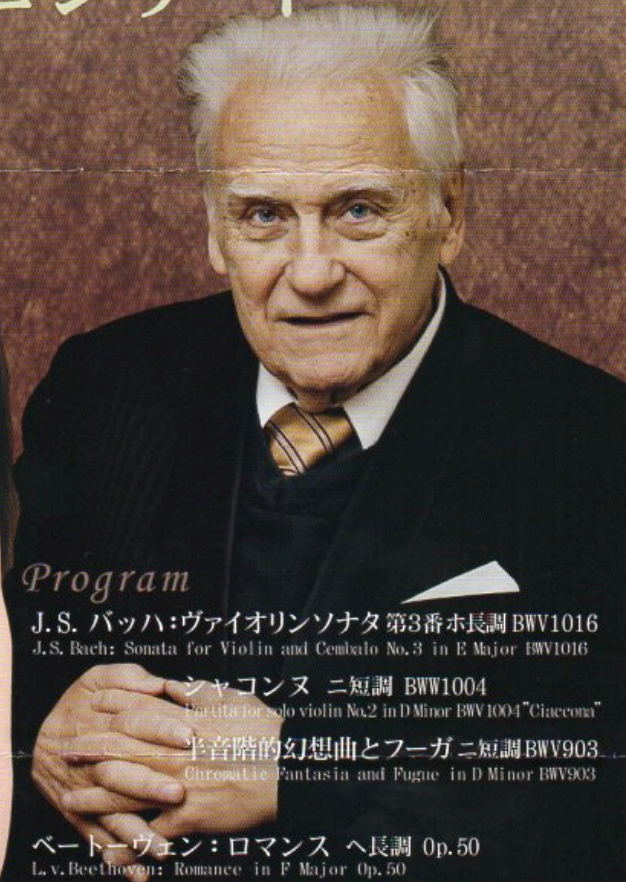


Erika Hanamura & Jörg Demus Duo Concert

花村 恵理香 *Violin & Piano* イェルク・デームス

デュオコンサート

溢れる詩情、
温かい弦の響きに
ウィーン・ロマン派最後の
大巨匠が寄り添う



Program

J. S. バッハ: ヴァイオリンソナタ 第3番 長調 BWV1016
J.S. Bach: Sonata for Violin and Cembalo No.3 in E Major BWV1016

チャコンヌ ニ短調 BWV1004
"Partita for solo violin No.2 in D Minor BWV 1004" "Ciaccona"

半音階的幻想曲とフーガ ニ短調 BWV903
Chromatic Fantasia and Fugue in D Minor BWV903

ベートーヴェン: ロマンズ 長調 Op.50
L.v. Beethoven: Romance in F Major Op. 50

シューベルト: ロザムンデ変奏曲 変ロ長調 D935-3
F. Schubert: Rosamunde Variations in B Flat Major D935-3

ブラームス: ヴァイオリンソナタ第3番 ニ短調 Op.108
J. Brahms: Violin Sonata No. 3 in D Minor Op. 108

※曲目・曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

2015

11.7 [土] (13:30 開場) 14:00 開演 東京文化会館 小ホール

※JR 上野駅公園口前

全席自由 一般 5,500円 学生 3,500円 ※未成年児の入場不可

チケット取扱い

プロアルテムジケ 03-3943-6677 www.proarte.co.jp
東京文化会館 チケットサービス 03-5685-0650 t-bunka.jp/ticket
ローソンチケット 0570-084-003 [Lコード: 36481] t-like.com
オーストリア大使館、日奥文化協会、日本ブラームス協会

後援

お問合せ・マネジメント

プロアルテムジケ MUSICART TEL.03-3943-6677 www.proarte.co.jp

© S. Imura

花村 恵理香 ♪ イェルク・デームス デュオコンサート

Message...

私の長年のパートナーであるヴァイオリンの花村 恵理香について、この場を借りてご挨拶出来たことを嬉しく思います。私達は長年にわたり多くのリハーサルを重ね、共に演奏し、一緒に音楽を作ってきました。そして今回、私の大好きなホールである東京文化会館で彼女と演奏できることを、とりわけ嬉しく思っています。今回のプログラムは、とても珍しくて興味を惹くものだと思います。前半は、バッハを聞いて頂きます。思い起こせば、21歳のとき、ウィーン楽友協会での四夜にわたるバッハ「平均律クラヴィーア」全曲演奏会を致しましたので、今回バッハの「半音階的幻想曲とフーガ」を演奏出来ることを光栄に思います。そして恵理香は、ソロヴァイオリンの為の最高傑作「シャコンヌ」を演奏します。後半はいくつかの小品を聞いて頂いた後、ブラームス不朽の名作「ヴァイオリン・ソナタ二短調」を演奏します。この作品や「弦楽五重奏曲 op.111」は、ブラームスが引退を決する前の最後の傑作といえるでしょう。しかしもちろん、彼の天才は引退するには余りに傑出しており、その後もクラリネット作品、20のピアノ曲、「4つの厳粛な歌」などを残しました。バッハの偉大な作品「シャコンヌ 二短調」に続き、ブラームスの「ヴァイオリン・ソナタ 二短調」はコンサートに最適な曲にふさわしいと思います。恵理香はとても美しい音を持っています。そして彼女は幸運にもストラディヴァリウスを奏でます。東京文化会館をこの上なく美しい音で満たすことができますよう私たちは願っています。

Jörg Demus

It is a pleasure to say a few words about my long time violin partner Erika Hanamura. We have rehearsed, played and made music together for many years and this time I'm especially happy to play with her in my favourite hall in Tokyo Bunkakaikan on November 7, 2015.

I think the program may be very interesting and unusual. In the first half is only Bach - I made my debut when I was 21 with the complete Welltempered Clavier in four evenings at the Vienna Musikverein and so it is an honour to play the Chromatic Fantasy and Fugue, and Erika will play the monumental Chaconne, the greatest work for violin solo ever written.

After some easy listening in the second half, it will be the monumental d-minor Sonata by Brahms - probably together with the great Quintet op. 111 the last of the great Brahms works, before he decided to leave the field to younger composers. Of course, his genius was too strong for this renouncement, and then he composed his wonderful works for clarinet, twenty solo piano pieces and the "Four Serious Songs". So, I would say that after Bach's Chaconne in d-minor the Brahms Sonata in d-minor will be a worthy closing of the concert. Erika has a very beautiful tone, and since she plays - how fortunate she is - a Stradivari violin, we hope to fill Tokyo Bunkakaikan with exquisite sounds.

As ever, my dear Erika, Yours very sincerely friend

Jörg Demus

大作曲家たちの故郷であるウィーンの旧市街を訪れると、彼らの生きていた当時の空気がそのまま感じられます。その偉大な音楽の継承者であるデームス氏は、作品に近づくための道標をいろいろ与えてくださいました。そしてこのコンサートで素晴らしい音楽を共に演奏できますことを嬉しく思います。

オールバッハの前半では、デュオソナタとそれぞれの独奏曲が演奏されます。ヴァイオリンソナタには受難曲の Aria のように切々とした歌を見出します。人が道に迷ったとき、苦難にあるときも、天から降りそそぐ温かい光はその行く手を照らしてくれることでしょう。教会のステンドグラスから差し込む光、木の葉を透す陽光のように、バッハの音楽も私たち皆の心に寄り添い、温かく包んでくれるのです。数年前に私自身も苦況にあるとき、デームス氏から届いたリサイタルのライブCDで最初に流れたバッハの美しい響きに心が救われました。

何年も前のことになりますが、バッハが 30 代の後半から 27 年間音楽監督を務め、オルガンを弾いていたライブツィビの聖トーマス教会で不思議な体験をしました。教会の扉を開けると、そこには神聖な空間があり、中に入ると上方から光のようなものがとても強いエネルギーを持って次々と自分に向けて飛び込んできたのです。その正体が何であるのかわかりませんが、時空を超えてエールが送られたような深い感動に包まれました。

プログラムの後半ではウィーンゆかりの作曲家たちの作品が演奏されます。ベートーヴェン、シューベルトの小品、そしてブラームスのデュオソナタ。彼らも皆、バッハの音楽をよく研究し、強い影響を受けたことに違いありません。

このコンサートが皆様に癒しや希望をもたらし、幸福なひとときとなりますよう心より願います。

花村 恵理香



花村 恵理香 / ヴァイオリン

Erika Hanamura, Violin

東京に生まれる。幼少よりヴァイオリンを始め、橋本功子氏、9歳より江藤優哉・アンジェラ氏に師事。桐南学園高校に進学し、全日本学生音楽コンクール入賞。桐南学園大学卒業後、英国王立音楽大学にてR.フレンド氏に師事。同大学の演奏ディプロマと名譽音楽を授けられる。セントマーティンズ・ザ・フィルハーモニー・ソナタシリーズほか各地で演奏。

帰国後、音楽の友ホール、東京文化会館、上子ホールなどでのリサイタルほか、数々のソロ、室内楽のコンサートに出演し、美しい音色や音楽性が高い評価を得ている。これまでにマスタークラスにて、R.リッチ、W.ピンク各氏のほか、古来のC.ブリツィ氏にはルネサンス、バロックの様式や奏法を学ぶ。ソリストとして、チェコ・プラハにて、V.ヴァーレック指揮プラハ放送交響楽団と協演し、同管弦楽団で放送される、2005年オーラト・ワルシャワフィルハーモニーに於ける、ワルシャワ交響楽団とのチャイコフスキーの協奏曲はスタンディングオベーションの成功をおさめ、指揮者で作曲家のM.セヴェン氏からも絶賛される。同氏の権威を受け2007年ベルリンフィルハーモニー・カンマーソールにてマゼパリッパ・シムフォニエッタと協演。以後ベルリンフィルハーモニー交響楽団、スロベニア交響楽団、スロベニア室内オーケストラ、ソフィア交響楽団にてソヴィエト・ソフィア交響楽団、西ポルミア交響楽団、ルゼヴィルハーモニー管弦楽団などと協演し、欧州各地で成功をおさめている。

ピアノのJ.デームス氏と出会い、作品解釈の方法や演奏法など多大な影響を受け、バッハ、ウィーン古典、ロマンからフランク、ドビュシーに至るまで探求を深める。2007年よりデュオにて、ザルツブルクのミラベル宮殿や各地で演奏のほか、津田ホール、2009年上子ホールでのデュオコンサートで好評を得る。

近年、音楽と楽器の歴史に思い、バルシヤ伝統音楽、伝統楽器、舞踏の研究も行っている。使用楽器はJ.S. バッハの生年と同じ1685年製ストゥディヴァリウス。 オフィシャルサイト <http://www.erikavioline.com>



イェルク・デームス / ピアノ

Jörg Demus, Piano

1928年オーストリア南部ザルツ・ベールテンに生まれる。ヴァイオリニストであった母の手ほどきで6歳よりピアノのレッスンを開始。11歳でウィーン音楽アカデミーに入塾し、ピアノ、指揮を学び、在学時の14歳のときウィーン楽友協会にてデビュー。ピアノをヴァルター・ケルシュバウマー、オルガンをカール・ワルター、指揮をハンス・スリロフスキー等に、作曲をヨゼフ・マルクスに師事する。その他ヴァルター・ギーゼキング、ウルヘルム・クンプ等の教えも受ける。21歳の時、オーストリア、ロンドンにて、コンラートハウス・カルテット・ウィーンとの共演でデビュー。1953年にはバリ・サル・ガヴォーにてセン・セーショナルなデビュー演奏し、著名な話題をさらった。1956年ブゾーニ国際コンクールでの優勝を機に、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、日本でも定期的ツアーを行い、ヘルベルト・フォン・カラヤン、カルロ・ゼッキ、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、小澤征爾、秋山和郎、飯冨義次郎、他の共演も多い。ソリストとしての活動のかたわら、歴史的楽器やハンマークラヴィーアなどの演奏法解釈の権威としても名を馳せている。バッハ作品にみせる解釈、ドビュシー作品の表現力や、モーツァルトからシューマンのピアノ面の伝道師として他の追随を許さず、伴奏者としてもその鋭敏な音楽性は高く、

エリザベト・シュヴァルツコフ、ディートリヒ・フィッシャー・ディースカウ、エリー・アメリク、ペーター・シュライアー、などから絶大な信頼を受ける。中でもフィッシャー・ディースカウとの「冬の旅」は声楽作品の録音の中でも最も高い評価を持つもの一つである。ヨゼフ・スーク(Vn)、アントニオ・ヤニグロ(Vc)等とも多く共演。そして貴重な古楽器を手し、これらの歴史的楽器にふさわしい作品の収録も行っている。ベートーヴェンの生誕200周年の際は、ボンで行われたベートーヴェン・フェスティヴァルにて各器ブロードウッドとコンサート・グループで演奏した。ザルツブルク近郊のデームスの拠点には、ピアノの歴史を物語る名画が掲げられており、毎年夏マスタークラスを行っている。また世界中で教育者として厚い信頼を寄せられている。

500以上のLP、CD、ビデオ、DVDは極めて高い評価を受け、シューマン、ドビュシーのピアノ全作品、J.S. バッハの平均律クラヴィーア曲集、バッハ、ハイデン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューマンのピアノ協奏曲や、またシュヴァルツコフ、フィッシャー・ディースカウ、アメリク、シュライアーなどとの歌曲の録音も多い。執筆も手がけ、作曲にも積極的に取り組み、ヴァイオリン、チェロ、ピアノトリオ、ピアノソナタ、歌曲、オペラなどの作品を発表している。

80歳を迎えた2008年、東京でのパースデー記念リサイタルに続き、ウィーン楽友協会ホールでも祝賀コンサートに出演。特に2011年の震災直後も率先して来日を果たし、音楽界に貢献した。2013年には来場デビュー70周年を迎え、ウィーン、東京での記念リサイタルなどに出演。溢れる詩情、限りなく美しい抒情性と情熱は聴衆に深い感動を呼んでいる。